

# 教育委員会点検・評価報告書

(令和5年度対象)

令和6年8月

津島市教育委員会

## 目 次

I	はじめに	
1	点検及び評価の趣旨	1
2	点検及び評価の対象	2
3	点検及び評価の方法	2
(1)	点検及び評価の視点	2
(2)	学識経験者の知見の活用	2
II	教育委員会の点検・評価	3
1	教育委員会の活動	3
(1)	教育委員会の会議の運営に関すること	3
(2)	教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	3
(3)	教育委員会と事務局との連携	3
(4)	教育委員会と市長の連携	3
(5)	学校及び教育施設に対する支援・条件整備	3
○	担当課による評価	3
2	教育委員会が管理・執行する事務	4
(1)	教育行政の運営に関する基本方針を定めること	4
(2)	教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること	4
(3)	教育委員会の所管に属する各種委員会委員任命又は委嘱に関すること	4
(4)	教育予算その他議会の議決を経るべき議案に関すること	4
(5)	津島市小中学校長会議に関すること	5
(6)	津島市立小中学校の2学期制に関すること	6
○	担当課による評価	6
3	教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	8
(1)	学校教育課主要事業	8
①	いじめ問題対策委員会委員報酬	8
②	デジタル田園ロボット・ブロックプログラミング教育事業	8
③	学校施設環境整備事業	9
④	小中学校修繕事業（主な修繕事業）	9
⑤	地域学校協働本部事業（補助金）	10
⑥	教育支援センター事業	10
⑦	学校配置職員の充実	10
⑧	学校図書館図書整備事業	10
⑨	キャリアスクールプロジェクト推進事業（職場体験）	11
⑩	就学助成事業	11

⑪ 外国語教育の充実（外国語教育・国際交流事業）	12
⑫ 総合的な基礎体力向上事業	12
⑬ 防災教育事業	13
⑭ 「郷土愛を育む 津島の達人ジュニア検定」	13
⑮ 給食献立コンクール事業	13
⑯ 学校給食用物資選定会の実施	13
⑰ 給食費の未収金対策	13
⑱ 単独調理場の改修工事	14
⑲ 教職員の働き方改革	14
○ 担当課による評価	14
(2) 社会教育課主要事業	16
① 生涯学習推進事業	16
② 家庭教育推進事業	16
③ 青少年事業	17
④ 文化芸術奨励事業	17
⑤ 歴史文化遺産活用事業	18
⑥ 文化財の修理・保存補助事業	18
⑦ 放課後子ども教室推進事業	18
⑧ 公民館事業	19
⑨ 生涯学習センター管理・運営事業	20
⑩ スポーツ大会・スポーツ教室事業	20
⑪ 総合型地域スポーツクラブ活動補助事業	20
⑫ スポーツ推進計画策定事業	20
⑬ 各種団体への行政関与の見直し事業	20
⑭ 指定管理者導入施設	20
○ 担当課による評価	21
Ⅲ 学識経験者の意見	23

## I はじめに

### 1 点検及び評価の趣旨

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、令和5年度の教育委員会の点検及び評価を行い、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものです。

結果を公表することにより、市民の皆様には教育に関する事務の管理及び執行の状況について説明するとともに、今後の施策・事業の展開等に活用し、より一層効果的な教育行政の推進を図っていきます。

#### <参考>

##### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 点検及び評価の対象

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条及び第 22 条に規定する教育委員会及び地方公共団体の長の職務権限について、令和 5 年度の部方針書に位置づけて実施した施策・事業等の実施状況を点検及び評価の対象としています。

## 3 点検及び評価の方法

### (1) 点検及び評価の視点

教育委員会議の開催など教育委員会の活動状況を明らかにするとともに、施策・事業等については、妥当性及び有効性等の視点から実施状況を点検し、課題等を踏まえた今後の取り組みの方向性を明らかにしています。

### (2) 学識経験者の知見の活用

教育委員会の活動状況や施策・事業等の実施状況についての点検及び評価の客観性を確保するとともに、今後の取り組みに向けた活用を図るため、前蟹江小学校校長の高橋央樹氏(津島市在住)、名古屋女子大学・名城大学・日本福祉大学・愛知大学 非常勤講師の三輪昭子氏の 2 名から点検及び評価に関する意見や助言をいただきました。

## Ⅱ 教育委員会の点検・評価

### 1 教育委員会の活動

#### (1) 教育委員会の会議の運営に関すること

教育委員会議については、毎月1回「定例教育委員会」を開催した。

#### (2) 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信

教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興が図られるようにするため、ホームページ等を利用し、開催結果を公開し、開かれた審議を進めた。

#### (3) 教育委員会と事務局との連携

教育委員会の招集告示は委員会の1週間前としている。会議資料の提供は、個人情報が多く含まれていることから、当日配付することとしている。

#### (4) 教育委員会と市長の連携

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、平成27年度から地方公共団体の長と教育委員会で構成する総合教育会議の設置が義務付けられた。これを受け、総合教育会議を年2回開催した。また、市長部局が開催する行政経営会議、部課長連絡会議に参加した。

#### (5) 学校及び教育施設に対する支援・条件整備

5月定例教育委員会に学校訪問等参加計画書（前期・後期）を示し、計画訪問ができるよう調整している。

### ○担当課による評価

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 定例教育委員会を12回実施した。</li><li>(2) 定例教育委員会の議事録をホームページに掲載し広く情報発信を行った。</li><li>(3) 個人情報の取り扱いに留意し定例教育委員会を開催した。</li><li>(4) 市長と連携して、総合教育会議を開催し、「領事館事業」の取組や歴史・文化学習事業「祭りを学ぶ」、「学校施設長寿命化計画」の更新等を議題として、活発な意見交換を行った。市長部局との会議により連絡、協調が図られた。今後も各小・中学校の教育活動の現状を把握し、教育の振興を図</li></ul> |
|---|

るため総合教育会議を開催する必要がある。

- (5) 令和5年度学校訪問は8小学校、4中学校で実施することができ、委員により学校運営状況を確認した。参観では、ICTを活用して児童生徒の興味や関心を高めたり、課題を明確に把握させるなど教員の指導力向上を確認することができた。

## 2 教育委員会が管理・執行する事務

### (1) 教育行政の運営に関する基本方針を定めること

基本方針は教育委員会の部方針書に位置づけて設定している。具体的には、学校施設の管理運営、安全・安心な学校給食の提供、学習活動の拠点整備、教育組織の適正運営、生涯学習・生涯スポーツの推進、文化財等の保存・継承・活用等である。

### (2) 教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること

規則の制定1件、規則の一部改正6件を原案のとおり承認した。

### (3) 教育委員会の所管に属する各種委員会委員任命又は委嘱に関すること

各委員の選任について、任命6件、委員の委嘱4件を原案のとおり承認した。

### (4) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案に関すること

定例教育委員会に、各議会における補正予算について報告を行った。

#### <6月補正予算>

- ・キャリアスクールプロジェクト事業（小学校） 70千円
- ・学校給食無償化事業（学校給食費徴収金）（減額補正） △78,606千円

#### <9月補正予算>

- ・スポーツ推進計画策定事業 4,994千円

#### <12月補正予算>

- ・人件費・報酬
- 教育総務費 8,100千円
- 学校教育指導費 1,800千円
- 小学校費 2,000千円

中学校費	1,030 千円
給食共同調理場費	△3,350 千円
社会教育費	1,140 千円
保健体育費	600 千円
・燃料価格高騰に伴う市立図書館指定管理者支援事業	1,375 千円

### < 3月補正予算 >

・光熱水費（小学校）（減額補正）	△17,258 千円
・光熱水費（中学校）（減額補正）	△12,978 千円
・光熱水費（学校給食調理場）（減額補正）	△22,000 千円
・給食用賄材料費（学校給食調理場）（減額補正）	△19,000 千円
・共同調理場学校給食調理委託料（学校給食調理場）（減額補正）	△10,000 千円
・蛭間小学校屋内運動場長寿命化改修工事監理委託料（減額補正）	△2,646 千円
・蛭間小学校屋内運動場長寿命化改修工事費（減額補正）	△46,840 千円
・神守中学校屋内運動場長寿命化改修工事監理委託料（減額補正）	△2,871 千円
・神守中学校屋内運動場長寿命化改修工事費（減額補正）	△45,090 千円
・駐車場使用料（減額補正）	△500 千円
・要・準要保護就学援助費（小学校分）（減額補正）	△6,840 千円
・要・準要保護就学援助費（中学校分）（減額補正）	△7,305 千円
・案内板整備工事（減額補正）	△4,209 千円
・秋祭調査委託料（減額補正）	△40 千円
・放課後子ども教室推進事業費（減額補正）	△1,500 千円
・光熱水費（生涯学習センター）（減額補正）	△2,000 千円
・スポーツ推進委員報酬（減額補正）	△1,058 千円
・錬成館空手マット設置事業（減額補正）	△1,508 千円
・日本スポーツ振興センタースポーツ振興くじ助成金（財源更正増額）	968 千円

### （5）津島市小中学校長会議に関すること

津島市立小中学校の教育振興・発展を図ることを目的として、教育委員会主催で年 11 回の定例会議を開催した。



## (6) 津島市立小中学校の2学期制に関すること

津島市教育委員会は、行事の削減・見直しを行い、授業時間数を確保するとともに、教師が児童生徒と接する時間を増やし、学習・生活面で個々の児童生徒への支援を充実させる目的で平成19年度から本格的に2学期制を導入している。

### ○担当課による評価

#### (1) 部方針書に基づく基本方針の施策目標及び方針

##### ◎学校教育課

###### ・特色ある教育の推進

基礎学力の向上が求められる中、子どもたちが楽しく学び、学習の意欲を高める教育が求められており、ICT（情報通信技術）教育の強化による効率的な教育や、楽しくて役に立つプログラミング教育を進めた。

また、学校を拠点とした地域との連携・協働により、子どもを地域と一緒に育てていくため、各学校・地域において地域学校協働活動やコミュニティースクールを、学校や地域の実情や特色に応じて、創意工夫をしながら進めた。領事館との交流事業や、外国語指導助手の授業を通して、国際理解教育を推進した。

###### ・心の教育推進

心理的・情緒的な要因により、不登校状態にある児童生徒及びその保護者を対象として、相談・助言・指導を行った。また、学びの場の提供や学校復帰を支援する教育支援センター（2か所）と校内教育支援センター（ほっとルーム）（2か所）で、きめ細かな不登校対策を展開した。

###### ・安全・安心な教育環境の整備

学校施設の環境整備・有効活用を図るなど、必要な修繕等を計画的に行う必要があり、津島市学校施設長寿命化計画の更新を行うとともに、計画に基づき、必要な修繕及び整備を進めた。

納入業者と協力し、地産地消を普及させるとともにオーガニック給食として、令和5年11月14日に、南小学校と北小学校のおよそ600名の児童を対し、オーガニック食材を使用しレンコンチップを提供した。

##### ◎社会教育課

###### ・生涯学習の推進

「生涯学習ガイド」を発行し、市民が活用しやすい学習情報を提供した。

また、市民の学習ニーズに応えるため、県内の大学から講師を招聘し、市民大学講座を開催した。

- ・生涯スポーツの推進

スポーツ競技大会、初心者向けのスポーツ教室、気軽に参加できるレクリエーションスポーツ等、子どもから高齢者まで参加できるさまざまな事業を開催することができた。また、スポーツ施設の整備やスポーツ団体の支援を継続的に行い、生涯スポーツの推進に努めた。令和5～6年度にかけて、今後の市のスポーツ振興のため、スポーツ推進計画の策定を行う。

- ・青少年の健全育成

放課後子ども教室に参加を希望する子どもたちが、安心して過ごす場を確保するよう努めた。

7月に愛知県青少年育成県民会議が主唱する青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動の街頭啓発活動を、第73回社会を明るくする運動（主催：津島保護区保護司会、共催：津島市更正保護女性会）と合同で実施した。

また、1月に20歳になった青年を励ます「はたちの集い」を、2月に青少年の豊かな心を育むため、各団体や高等学校の協力を得て、「つしまおやこワクワク体験活動フェスティバル！」を開催した。

- ・文化財等の保存・継承・活用

文化財の所有者、管理者、保存団体等に対して、文化財の保存に係る修理や無形民俗文化財の継承のための活動を支援した。また、市が所有・管理する旧堀田家住宅について、維持管理を行うとともに、年間を通じて公開した。

- ・文化・芸術活動の支援・奨励

芸術活動の成果発表の場を設け、芸術文化の普及・振興を図るとともに、市民が芸術活動に関心を持つきっかけとなることを目的として、10月に芸能交流会及び文化祭美術展を開催した。

- ・歴史・文化資源を活用した地域に魅力の磨き上げ・発信

市民が地域の文化や歴史的遺産を地域の誇りとしてとらえ、まちに愛着を持つとともに、地域の歴史や文化を魅力として市内外に発信していくため、歴史・文化遺産ホームページの運営や歴史文化遺産を紹介する案内板の整備、公開施設である堀田家住宅で「近代津島の芸術家展」（4～5月）、「天王祭デザイン展」（7～8月）、「ひなまつり展」（2～3月）を開催し

た。

(2) (3) (4) 教育委員会規則及び規程の制定・改廃、所管に属する各種委員会委員任命又は委嘱に関することについて、定例教育委員会にて審議、承認を行った。また、3月、6月、9月、12月の定例市議会の内容は、直近の定例教育委員会で報告した。

(5) 津島市小中学校長会議の主な会議内容

- ・教育長から学校経営管理に関する内容について指示を行った。
- ・様々な教育課題に対する対応等について協議を行った。
- ・教育委員会事務局から教育行政の情報提供を行った。
- ・教育委員会関係の予定について伝達を行った。
- ・市主催の事業への参加について依頼を行った。

なお、年度初めの4月、年度末の3月は、教頭も参加し、円滑に学校経営が進められるように会議を行った。また、事前に教育委員会指示内容の検討を行うための役員会を開催した。

(6) 2学期制実施の効果

- ・授業や活動の時間が増え、教師は児童生徒とじっくり向き合うことができ、相互理解が深まり学校生活全般の向上が見られている。
- ・ICTを活用した学習、外部講師の活用、体験学習や教育相談活動が充実し、基礎学力の定着や健全育成につなげることができている。
- ・各教科の達成度を評価するにあたり、長いスパンで児童生徒の学習活動を観察できるため、学習指導要領の趣旨のもと設定された3観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）での評価を、より適切に進めることができている。

### 3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(1) 学校教育課主要事業

① いじめ問題対策委員会（委員報酬） 決算額 26,800円

いじめ問題対策委員会（令和6年1月30日開催）を開催した。

② デジタル田園ロボット・ブロックプログラミング教育事業

報償費 決算額 83,066円

プログラミング教室事業委託料 決算額 2,502,800円

全小中学校を対象に、A I 機能を持ったプログラミング可能な人型ロボット及びブロックを活用し、プログラミング教育を実施した。

・ I C T 支援員設置事業（ I C T 支援委託料）

I C T による協働的な学びを実現するため、その技術や活用に知見を有する I C T 支援員を市独自で配置を行い、 I C T を活用した授業等を教師がスムーズに行えるようサポートした。

市内 8 小学校委託料	決算額	8, 448, 000 円
市内 4 中学校委託料	決算額	2, 112, 000 円

③ 学校施設環境整備事業

学校施設長寿命化計画策定委託料	決算額	2, 860, 000 円
神島田小学校屋内運動場修繕工事实施設計委託料	決算額	4, 180, 000 円
蛭間小学校屋内運動場長寿命化改修工事監理委託料	決算額	4, 910, 400 円
蛭間小学校屋内運動場長寿命化工事	決算額	199, 320, 000 円
東小学校庇改修工事	決算額	15, 081, 000 円
神守中学校屋内運動場長寿命化改修工事監理委託料	決算額	6, 193, 000 円
神守中学校屋内運動場長寿命化工事	決算額	316, 800, 000 円
L E D 器具借上料（小学校費）	決算額	7, 656, 000 円
L E D 器具借上料（中学校費）	決算額	3, 828, 000 円
器具購入費（小学校費）	決算額	11, 000, 115 円
		（うち木製製品充実化事業 6, 389, 900 円）
器具購入費（中学校費）	決算額	4, 166, 840 円

学校施設の質的維持を図るとともに財政支出の縮減と平準化を図るため、学校施設長寿命化計画を見直した。また、神島田小学校屋内運動場修繕工事の実施設計を行い、東小学校庇改修工事、蛭間小学校及び神守中学校屋内運動場長寿命化工事を実施した。木製製品の充実化を目的に、東小学校の 8 教室に木製ロッカーを整備した。

④ 小中学校修繕事業（主な修繕事業）

・ 東小学校プール修繕	決算額	5, 978, 500 円
・ 神守小学校給食用小荷物昇降機修繕	決算額	2, 970, 000 円
・ 高台寺小学校北西通用門扉修繕	決算額	1, 686, 850 円
・ 神守中学校バスケットコート等整備修繕	決算額	2, 915, 000 円
・ 藤浪中学校中庭整備修繕	決算額	1, 980, 000 円
・ 天王中学校中館 2 階手洗い場漏水修繕	決算額	929, 500 円

児童生徒の安心・安全な学習環境の整備を実施した。

- ⑤ 地域学校協働本部事業（補助金） 決算額 1,620,000 円  
地域の子どもは地域で育てることを基本とし、学校の求めに応じて、地域のボランティアが学校を支援する活動に参加できるしくみづくりを推進した。
- ・地域学校協働本部 平成 30 年度 全小中学校 設置
  - ・コミュニティスクール（学校運営協議会） 全小中学校 設置
- |          |                      |
|----------|----------------------|
| 平成 30 年度 | 神守中学校 設置             |
| 令和元年度    | 南小学校 設置              |
| 令和 2 年度  | 神守小学校・高台寺小学校・暁中学校 設置 |
| 令和 3 年度  | 東小学校・神島田小学校 設置       |
| 令和 4 年度  | 天王中学校・藤浪中学校 設置       |
|          | 西小学校・北小学校・蛭間小学校 設置   |

- ⑥ 教育支援センター事業 決算額 20,026,125 円  
心理的・情緒的な要因により、不登校の状態にある児童生徒及びその保護者を対象として、市内 2 か所の教育支援センターにて適正な相談・助言及び指導を行い、学校復帰を支援し、神守中学校、藤浪中学校に校内教育支援センター（ほっとルーム）を開設した。  
（指導員 9 人配置 令和 5 年度教育支援センターの利用児童生徒数 27 人）  
また、スクールソーシャルワーカー 1 名を配置し、様々な問題を抱える児童生徒の問題解決のため関係機関等と連携・調整を行った。

- ⑦ 学校配置職員の充実 決算額 115,346,472 円
- |  |
|--|
| 〔 小学校 75,658,156 円<br>中学校 39,688,316 円 〕 |
|--|

学校管理業務・給食業務のため、校務員及び配膳パート職員を配置した。また、教育支援を要する児童生徒への指導を充実するため、市雇用の支援員を市内 12 小中学校へ配置した。

校務員 17 人（再任用職員 1 人を含む。）、配膳パート 19 人、  
学校支援員 42 人 計 78 人（再任用職員 1 人を含む。）

（令和 5 年 5 月 1 日現在）

- ⑧ 学校図書館図書整備事業 決算額 6,692,416 円
- |  |
|--|
| 〔 小学校 3,628,003 円<br>中学校 3,064,413 円 〕 |
|--|
- 子どもたちの豊かな感性や情緒を育み、健やかな成長に資する図書を提供す

るため、学校図書館の蔵書数を学校図書館図書基準に見合うよう整備を進めている。

令和5年度小・中学校蔵書数（令和6年3月31日現在）

東小学校	13,175 冊
西小学校	11,065 冊
南小学校	9,265 冊
北小学校	10,055 冊
神守小学校	10,439 冊
蛭間小学校	9,150 冊
高台寺小学校	9,081 冊
神島田小学校	10,331 冊
天王中学校	12,272 冊
藤浪中学校	15,732 冊
神守中学校	14,138 冊
暁中学校	13,326 冊

⑨キャリアスクールプロジェクト推進事業（職場体験） 決算額 125,000 円  
若年層の進路意識の希薄さや勤労観の未発達が大きな社会問題となっている。その対策として、生徒が職業の魅力を感じ、望ましい勤労観や職業観を醸成できるように、職場体験学習を核とした中学校1年生から3年生までの系統的なキャリア教育のさらなる推進を図る目的で実施した。

中学校名	期 間		参加生徒数	協力事業所数
天王中学校	10月25日～10月27日	3日	114人	36
藤浪中学校	11月15日～11月17日	3日	117人	35
神守中学校	11月28日～11月30日	3日	146人	40
暁 中学校	6月14日～6月15日	2日	120人	44

キャリアスクールプロジェクト推進事業（東小学校） 決算額 70,000 円  
夢・希望をもち学び続ける児童の育成を目的に、ラジオDJをはじめ様々な働く人の体験談を聞き体験活動を伴う出前授業を全学年で実施した。

⑩ 就学助成事業

要・準要保護就学援助費 小学校分 決算額 8,072,945 円

中学校分 決算額 11,322,953 円

小中学校の児童生徒の保護者を対象に、就学が困難な方に対し、就学援助費を補助した。

令和5年度就学援助受給者実績

就学援助受給者 (人)				児童生徒数 (人) (学校基本調査 令和4年5月1日)			全体に対する受給率 (%)		
新小学校 1年生	小学校 (ア)	中学校 (イ)	計 (ア) + (イ)	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
23	263	170	433	2,496	1,548	4,044	10.54	10.98	10.71

私立高校授業料補助事業 決算額 2,820,000 円

私立高校の保護者負担の軽減をはかり、家庭環境に関わらず、誰もが学校を選べるよう私立高校授業料補助(1人1万円)を実施した。

(令和5年度実績 282人)

⑪ 外国語教育の充実(外国語教育・国際交流事業) 決算額 26,837,115 円

外国人指導助手(5人)を配置し学校に派遣を行った。また、国際文化の交流を深めていくため、県内の領事館を通じた国際理解教育を8小学校にて実施した。東小学校、南小学校においてはオンラインにて交流した。

令和5年度

小学校名	交流領事館	交流日
東小学校	ペルー	令和5年12月15日
西小学校	ブラジル	令和6年2月2日
南小学校	フィリピン	令和6年2月13日
北小学校	大韓民国	令和5年11月29日
神守小学校	カナダ	令和6年1月17日
蛭間小学校	トルコ	令和6年1月30日
高台寺小学校	中華人民共和国	令和5年7月5日
神島田小学校	アメリカ合衆国	令和5年11月21日

令和4年度 8小学校にて交流事業実施

令和3年度 蛭間小(カナダ)、高台寺小(大韓民国)にて実施

令和2年度 新型コロナウイルス感染症の影響により中止

⑫ 総合的な基礎体力向上事業

基礎体力を向上し健康な身体を維持していくよう、体育の授業時間になわとびに取り組んだ。基礎体力向上のための取り組み（SKIP）を市内12小中学校で実施し、教員を対象にサーキットトレーニング研修を行った。

#### ⑬防災教育事業

「自分の命は自分で守る」を合言葉にし、令和5年度は藤浪中学校区において地域住民の協働による総合防災訓練を実施した。

各学校において、「家庭防災の日」の周知を行い、日頃から防災意識を高める取り組みを行った。

#### ⑭「郷土愛を育む 津島の達人ジュニア検定、ジュニア選手権」

津島市の郷土の歴史や文化を知るため、毎年1月に市内小学6年生全員が検定を受検している。令和5年度で14回目となった。さらに学習を続けたい児童は「津島の達人ジュニア選手権」に挑戦した。（2月）この検定により津島市へのシビックプライドが高まった。

#### ⑮給食献立コンクール事業

給食献立コンクール事業を実施した。

応募総数 小学校 553点 中学校 425点 合計 978点  
入賞作品 12点を選び、入賞作品3点を給食の献立に採用した。

#### ⑯学校給食用物資選定会の実施

学校給食用物資購入に際し、安全で良質な物資を安価に購入するため、毎月1回開催した。

令和5年度実績

開催数 11回（8月分を除く）

構成員（学校教育課長、給食調理場長、栄養教諭（学校栄養職員含む）5名、小・中学校給食主任3名、調理員2名の計12名）

年間取引金額 253,970,375円

#### ⑰給食費の未収金対策

給食費の未納者に対し、督促状を送付し、徴収に努めた。また、平成24年度から30年度にかけての未収金のうち徴収不能と判断した金額を債権放棄し、不納欠損処分を行った。

令和5年度末（令和6年5月31日現在）未収金 30人 1,803,416円  
不納欠損処分内訳



平成 24 年度	29,730 円 (1 件)	平成 26 年度	49,920 円 (2 件)
平成 27 年度	24,480 円 (2 件)	平成 28 年度	93,885 円 (2 件)
平成 29 年度	45,135 円 (1 件)	平成 30 年度	13,515 円 (1 件)
合計	256,665 円 (9 件)	※件数は延べ数	

#### ⑱単独調理校の改修工事

単独調理校である南小学校調理室の雨漏り対策のため、屋上防水改修工事を行った。

南小学校調理室屋上防水改修工事 決算額 6,930,000 円

#### ⑲教職員の働き方改革

自己の健康を維持し、多忙感を解消するため「定時退校日」、「目標退校時間」の設定に続き、年度当初の時間割の見直し（小学校では 40 分 5 時限、中学校では 45 分 6 時限）、部活動の時間の短縮を実施した。（早朝部活の中止、平日の週 1 日以上の休止）

#### ○担当課による評価

- ① いじめ問題対策委員会を令和 6 年 1 月 30 日に開催し、現状の把握に努めることが出来たが、今後各学校においてきめ細やかな対策が必要である。
- ② 津島市では、令和 4 年度より 3 か年事業として津島プログラミングプロジェクト（TPP）を実施しており、全小中学校を対象に、AI 機能を持ったプログラミング可能な人型ロボット及びブロックを活用し、未来のデジタル社会を担う人材育成を図っている。令和 5 年度は中学生を対象とし、津島プログラミングプロジェクトプレ大会を開催した。また、ICT 支援員を市独自で配置し、ICT 教育に関する教員へのサポートを積極的に支援した。今後について、令和 2 年度に立ち上げた 1 人 1 台タブレット利活用研究会を定期的で開催するなどし、情報共有を図りながらその積極的な運用に努めていく必要がある。あわせて次世代を見据えたプログラミング教育を推進していくことが求められている。
- ③ 児童生徒が安全・安心に学校生活を送れるよう、蛭間小学校と神守中学校の屋内運動場長寿命化改修工事、東小学校庇改修工事等を行った。また、神島田小学校の屋内運動場修繕工事实施設計を行った。次年度以降も学校施設長寿命化改修事業を計画的に実施する必要がある。
- ④ 児童の安心・安全な学習環境の施設整備を実施したが、老朽化が進んでいるため、継続的な取り組みが必要である。
- ⑤ 地域学校協働本部事業を推進し、保護者を含む地域住民が子どもの成長を

支え、子どもも地域に愛着をもてるような教育環境づくりに努めた。今後については、全小中学校に設置されたコミュニティスクールを核に、地域で子ども育てていく教育体制の構築に努めていきたい。

- ⑥ 不登校児童生徒が増加する中、教育支援センターの在り方が「学校復帰の場」から「学校以外の学びの場」へと変わってきている。タブレットを活用したり、自主学習の支援をするなど、学びの場を提供することができた。また、校内教育支援センター（ほっとルーム）を神守中学校に加え藤浪中学校にも新設し、不登校状態にある生徒を指導・支援した。今後もさらにセンターと学校との連携を深め、市教育支援センターとして不登校の児童生徒にきめ細かい指導を行っていく。
- ⑦ 8小学校4中学校に校務員・配膳パート・学校支援員を配置することができた。
- ⑧ 学校図書館の充実は今後も課題であるが、学校図書館の充足率はほぼ100%以上である。引き続き整備していく必要がある。
- ⑨ 様々な職業に関心をもつとともに、職場体験への意欲を高めることができた。働く意義や仕事をする事の辛さなど職業に対する理解を深めるとともに、あいさつ、言葉遣い、態度など、人との接し方を振り返ることができ、社会の一員としての姿勢を学ぶことができた。
- ⑩ 就学助成事業として、経済的な理由で就学が困難な方に対し、就学援助費等を補助を実施した。また、私立高校授業料補助事業を実施することで、家庭環境に関わらず、誰もが学校を選べることについて一定の効果があつた。
- ⑪ 他国の文化に触れる機会をもつことにより、国際感覚の醸成に努めた。外国籍の児童生徒のため日本語教室を支援した。
- ⑫ 子どもたちの体力は、低下傾向にあるため、継続して取り組んでいく必要がある。
- ⑬ 防災教育の必要性は年々高まってきており、日頃から防災意識を高める取組みを学校・家庭・地域が一体となって取り組む必要がある。
- ⑭ 「郷土愛を育む 津島の達人ジュニア検定」を市内小学6年生全員に実施することで、郷土愛について学ぶ機会を提供することが出来た。
- ⑮ 「給食献立コンクール」の実施により、家庭の料理を家族と一緒に考え学校給食に生かすことで、より給食への関心が高まった。
- ⑯ 安全・安心な食材の確保ができ、おいしい学校給食の提供ができた。
- ⑰ 令和4年度比で359,145円の未収金の減少となっている。令和5年度に不納欠損処分を行い、未収金の一部を減少させたが、引き続き学校と協力し、督促状の送付をはじめ、催告書の送付、家庭訪問等を行う体制を構築し、さらに未収金の徴収に努めなければならない。

- ⑱ 単独調理校の南小学校調理室の雨漏り対策をすることで、カビ等の発生を防止衛生的な調理環境を構築し、安心安全でおいしい給食を提供することができた。
- ⑲ 平日の部活動の時間の短縮化、休日の部活動の縮小、会議の在り方を見直すなど教職員の働き方改革を推進することで、ある程度の改善効果があったが、引き続き進めていく必要がある。

## (2) 社会教育課主要事業

### ① 生涯学習推進事業 決算額 328,494 円

市民が活用しやすい生涯学習情報誌『生涯学習ガイド』を発行し、市の施設等に常置するとともに、ホームページに掲載した。

また、過去の受講者アンケートの回答をふまえ、大学等から講師を招いて、市民の学習意欲に応えるために市民大学講座を開設した。

テーマ	日時		場所	参加者
国の宝を守れ！「国宝」を知ろう	6月10日(土)	午前10時00分	図書館	22人
	6月17日(土)	〃		18人
	6月24日(土)	午前11時45分		19人

テーマ	日時		場所	参加者
親子で楽しく英語を学ぼう	11月25日(土)	午前10時00分	図書館	7人
		午前11時45分		

テーマ	日時		場所	参加者
トルコの歴史から探る 食文化・生活様式	12月2日(土)	午前10時00分	図書館	14人
	12月16日(土)	〃		15人
	12月23日(土)	午前11時45分		13人

### ② 家庭教育推進事業 決算額 41,770 円

令和5年度から重点地区に指定した南小学校区において、学校、家庭、地域の連携により、親子や子どもの異学年、また、世代間の交流を深める事業を実施した。

テーマ	日時	会場	受講者数
「命の授業1」 ヒトの誕生	9月28日(木)	南小学校	78人

「命の授業2」 ヒトの誕生	10月26日(木)	午前9時45分 ～ 11時35分	南小学校	71人
「命の授業3」 ヒトの誕生	10月27日(金)	午前9時45分 ～ 午前11時35分		81人
「情報モラル授業1」 インターネットトラ ブル対策	11月22日(水)	午後1時50分 ～ 午後3時35分		78人
「情報モラル授業2」 インターネットトラ ブル対策	2月2日(金)	午後1時55分 ～ 午後3時40分		71人

③ 青少年事業

決算額 108,084円

関係機関と連携を図りながら青少年健全育成活動を実施した。

7月に愛知県青少年育成県民会議が主唱する青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動の街頭啓発活動を、第73回社会を明るくする運動(主催:津島保護区保護司会、共催:津島市更正保護女性会)と合同で実施した。

様々な社会体験や自然体験活動を通して青少年の豊かな心を育むため、青少年活動を支援する団体、高等学校のクラブ等の協力で「つしまおやこワクワク体験活動フェスティバル!」を2月3日(土)に津島市文化会館大ホールにおいて開催し、10の出展団体、405名の参加があった。また、会場で「家庭の日県民運動」として啓発活動を行った。

20歳を対象に大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます機会として、「はたちの集い」を1月7日(日)に開催し、令和5年度に20歳を迎えた536人が参加した。

④ 文化芸術奨励事業

決算額 1,399,094円

市内で活動する文化団体の相互交流を図り、各団体の組織化に努めるとともに、日ごろの活動の成果を発表する機会を設け、各自の芸能・技芸の向上や市民への芸術文化の普及のため、10月22日(日)に芸能交流会を開催し、17団体44演目の発表があった。

また、芸術活動の成果発表の場を設け、芸術文化の普及・振興を図るとともに、市民が芸術活動に関心を持つきっかけとなることを目的に、10月27日(金)～29日(日)で文化祭美術展を開催し、121人219点の出品があった。併せて、市ゆかりの芸術家の作品を展示する郷土の芸術家展を同期間開催し537人が来場した。

⑤ 歴史文化遺産活用事業 決算額 23,037,608 円

市民が地域の文化や歴史的遺産に関心を持ち、地域の誇りとして保護・継承するとともに、新しい地域文化創造へと発展させるため、歴史・文化遺産ホームページ（津島市デジタル博物館）での文化財の紹介、歴史文化遺産を紹介する案内板の整備、堀田家住宅の公開等を行った。堀田家住宅観覧者数の令和5年度実績は1,697人となった。企画展として「近代津島の芸術家展」（4～5月）、「天王祭デザイン展」（7～8月）、「ひなまつり展」（2～3月）を開催した。

また、市内の文化遺産を紹介する案内板を25カ所整備した（令和5・6年度で30カ所整備予定）。

津島秋祭（山車祭）調査事業を令和5・6年度で実施している。

歴史文化学習事業として、小学校4年生から6年生までを対象に、尾張津島天王祭について学習する「祭りを学ぶ」を愛西市教育委員会との共催で実施した。

・「祭りを学ぶ」実施状況

日にち	実施内容	受講者数
7月9日(日)	尾張津島天王祭クイズ、興禅寺・牛頭天王像見学、津島神社見学	31人
7月23日(土)	尾張津島天王祭朝祭の見学	33人
8月6日(日)	神葎見学、神葎刈体験、しめ縄作り体験	28人

⑥ 文化財の修理・保存補助事業 決算額 7,430,000 円

文化財の所有者、管理者、保存団体等に対する助言、文化財保存のための計画的な修理及び無形民俗文化財の保存活動を支援した。

(ア) 文化財保存事業費補助

- ・津島秋祭山車保存修理費補助
- ・津島石採祭車保存修理費補助
- ・越津町神楽保存修理費補助

(イ) 尾張津島天王祭車楽舟行事保存事業費補助

(ウ) 無形民俗文化財保存事業費補助

（津島山車保存会、津島石採祭車保存会）

(エ) 重要文化財管理事業補助（津島神社本殿・楼門）

⑦ 放課後子ども教室推進事業 決算額 15,283,268 円

学校の余裕教室等を活用して、放課後における子どもの安全かつ安心な

活動の場を確保し、地域の住民の参画を得ながら、さまざまな体験、交流、学習等の活動の機会を提供した。

令和5年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施曜日を2～3のグループに分けることで、1日の参加人数を減らしつつも、なるべく多くの子どもたちが体験・学習・交流を行えるようにした。

また、令和3年度に各放課後子ども教室にパソコンやポケットWi-Fiなどを配備してオンライン環境を整えており、令和5年度からはタブレット及びプログラミング学習キットを導入するとともに、民間企業との協働でプログラミング教室を5教室で実施した。

実施校	実施曜日			実施時間	活動場所	グループの定員(総数)	参加者数
	月・水	火・木	水・金				
東小学校	月・水	火・木		午後3時 (授業終了後) から 午後5時 まで	旧普通教室 (2室)	各40人 (80人)	19人 25人
西小学校	火・木	水・金			旧理科室	各25人 (50人)	27人 27人
南小学校	月・火	水・木			南棟1階 西側	各23人 (46人)	20人 20人
北小学校	月・火	水・金			1階西側	各25人 (50人)	9人 7人
神守小学校	月・火	水・木			旧図工室	各35人 (70人)	15人 13人
蛭間小学校	月・火	水・木			視聴覚室	各25人 (50人)	25人 24人
高台寺小学校	火・水	木・金			生活科室	各30人 (60人)	17人 18人
神島田小学校	火	水	金		体育館内 旧会議室	各10人 (30人)	6人 5人 9人

⑧ 公民館事業

決算額 2,979,256円

神島田公民館では、11講座を開催し、延べ959人が受講した。その中で、「スマホ教室」や「そうぞく講座」等民間企業との連携事業を進める事ができた。公民館クラブ・同好会は、4団体延べ1,443人の利用となった。また、官公署が主催する講座等の利用者数は延べ529人で、年間の利用者数は、合計で3,305人であった。

- ⑨ 生涯学習センター管理・運営事業 決算額 39,144,843 円  
誰もが気軽に利用し、スポーツ等に親しむことができる施設として、利用者の目線に立った、利用しやすく親しまれる施設づくりを進めた。年間で屋外施設は延べ 19,134 人、屋内施設は延べ 39,847 人が利用した。
- ⑩ スポーツ大会・スポーツ教室事業 決算額 3,897,361 円  
さまざまなスポーツ大会や教室を開催したほか、令和 5 年度で 2 回目となる、市出身のプロランナー・神野大地選手をコーチに招き、市民を対象としたランニングクリニックを開催した。親子 40 組 80 人、中学生以上 24 人が参加した。
- ⑪ 総合型地域スポーツクラブ活動補助事業 決算額 166,000 円  
生涯スポーツの実現に向け、就学前のお子さんから 70 代以上の方まで、さまざまな世代の方がそれぞれのレベルに合わせ、気軽にスポーツに親しめる機会を提供する活動を支援した。令和 5 年度登録会員数 220 人。
- ⑫ スポーツ推進計画策定事業 決算額 4,400,000 円  
スポーツを楽しむ環境の充実、スポーツによる地域活性化等、今後の市のスポーツ振興のため、令和 6 年度にスポーツ推進計画の策定を予定している。令和 5 年度は市のスポーツの現状等を把握するため、市民、スポーツ団体等を対象にアンケート調査を実施した。
- ⑬ 各種団体への行政関与の見直し事業  
スポーツ協会は、平成 25 年度から生涯学習センター内に事務局を移設し自主運営を行っている。他の団体についても、それぞれ行政の関わりについて見直しを継続する。
- ⑭ 指定管理者導入施設 決算額 170,321,000 円  
適正な管理運営及び施設利用者に対して満足度の高いサービスを提供するため、各施設等でモニタリングを実施した。
- (ア) 津島市立図書館  
貸出者数(66,475 人)は前年度より 1,200 人増、蔵書冊数については令和 5 年度末で 311,370 冊(1,342 冊増)、市内図書利用カード登録者数は 30,228 人であった。また、子どもの読解力向上事業の一環として、令和 4 年 12 月から導入した電子図書館の令和 5 年度末の電子図書数は 1,780 タイトル、令和 5 年度中の貸出回数は 5,502 回、閲覧回数

15,115回であった。

(イ) 親愛集会所・永楽集会所

町内会等地縁の団体を管理者に選定し、地域住民の生涯学習、交流の場として地域の実情に即した管理運営を行った。

(ロ) 教育・体育施設及び都市公園

(錬成館、児童科学館、総合プール、市営球場、市営庭球場、葉苺スポーツの家、東公園)

健康づくりや体力づくり、生涯学習や市民の憩いの場として、安心安全な管理運営を行い、施設全体で年間約15万人以上に利用された。

### ○担当課による評価

- ① 「生涯学習ガイド」を発行し、市民が活用しやすい学習情報を提供した。また、大学と連携して講座を企画し市民大学講座を3講座を実施した。市民ニーズにあった内容で実施することにより、受講者増加に努める必要がある。
- ② 南小学校区の家庭教育推進協議会の取り組みにより、学校・家庭・地域が協力・連携して「地域全体で子どもを育て・育む」意識の醸成を図る事業を実施した。
- ③ 愛知県青少年育成県民会議と連携し、関係機関や団体の協力を得て啓発活動を実施した。また、各団体や高等学校の協力を得て「つしまおやこワクワク体験活動フェスティバル！」を開催し、青少年が豊かな心を育むための場を提供したほか、20歳を迎えた青年を祝い励ます「はたちの集い」を開催した。
- ④ 市民の文化・芸術への機運を高めるため、日ごろの芸能や芸術を発表する場として、芸能交流会や文化祭美術展を開催した。また、市ゆかりの芸術家の作品を展示する郷土の芸術家展を開催した。
- ⑤ 年間を通じて堀田家住宅の公開を実施し、3つの企画展を開催するとともに、市内外に歴史や文化遺産を紹介するため、歴史・文化遺産ホームページを運営したほか、市内25カ所に案内板を整備した。また、愛西市教育委員会と共催で、尾張津島天王祭について学ぶ歴史文化学習事業「祭りを学ぶ」を開催した。文化財の保存・継承のためには、引き続き文化財の調査・保護・普及に努める必要がある。
- ⑥ 文化財の所有者、管理者、保存団体等に対して、助言や修理・保存に必要な費用の補助を行うことにより、文化財を保存するための計画的な修理及び無形文化財の保存活動を支援することができた。引き続き、適切な支援を行っていく必要がある。
- ⑦ 放課後子ども教室は、令和3年度にオンライン環境を整えたことに続き、



令和5年度は参加児童が使用可能なタブレット及びプログラミング学習キットを導入し、児童のICT活用能力の活性化を図った。今後も子どもの学びや活動の場として持続していく必要がある。

- ⑧ 公民館教室・講座は新しく2講座増やしたこともあり、参加者は昨年比べて増加したが、リピーターが多いことが例年の課題である。
- ⑨ 誰もが快適に利用でき、スポーツ等に親しめるよう、老朽箇所の修繕等の施設整備を引き続き行っていく必要がある。
- ⑩ 日ごろの練習の成果を発揮する場や、選手同士の交流の場を創出することができた。また令和5年度で2回目となる、地元出身のプロランナー神野大地選手をコーチとして招くランニングクリニックを開催した。現役のトップアスリートから直接指導が受けられる貴重な機会を提供することで、市民のランニング愛好者を増やし、健康づくりに寄与することができた。
- ⑪ 総合型地域スポーツクラブにおいて、さまざまな世代の方々にスポーツ活動の機会を提供した。今後も市民の健康保持・増進のため、クラブの支援を継続する。クラブでは次世代の人材育成や活動場所の安定した確保等が課題となっており、関係者と課題を共有し連携を密にしていく。
- ⑫ 市民、小学5年生、中学2年生、スポーツ協会等のスポーツ団体を対象にアンケートを実施することで、津島市のスポーツに関する現状やさまざまなニーズを把握することができた。今後策定するスポーツ推進計画に反映していく。
- ⑬ スポーツ協会のさらなる自立した運営を目指し、またスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブについても自立した運営を目指していく。
- ⑭ 図書館、スポーツ施設、集会所等の指定管理業務のチェックリストを作成し、モニタリングを実施するとともに定期的な打ち合わせ・情報交換を実施することにより市民満足度の向上に努めた。

### Ⅲ 学識経験者の意見

教育委員会の活動状況や施策・事業等の実施状況についての点検及び評価の客観性を確保するとともに、今後の取り組みに向けた活用を図るため、前蟹江小学校校長の高橋央樹氏、名古屋女子大学・名城大学・日本福祉大学・愛知大学 非常勤講師の三輪昭子氏の2名から点検及び評価に関する意見や助言をいただきました。

前蟹江小学校校長 高橋 央樹氏

- ・ A I 機能を持ったプログラミング可能な人型ロボット及びブロックの全校配備とその活用からなるプログラミング教育「T P P : 津島プログラミングプロジェクト」は、コミュニケーション能力や論理的な思考力を養うとともに自ら課題解決に向かう力の育成にもつながる先進的なすばらしい取組である。学年に応じたさまざまな活用を試みることで、授業や学習活動での効果的な活用方法を探ってほしい。
- ・ 地域の子どもを地域で育てることを基本とした地域学校協働本部事業は、県内でも先進的な取組であり地域に根差した学校支援の在り方として大変効果的な運用が行われている。人材の確保など苦労する点も多いと思われるが、今後も継続して取組を進めていただきたい。
- ・ 先行き不透明な社会情勢の中で、学校だけでなく家庭や社会などさまざまな要因による不登校児童生徒の増加が懸念されており、教育支援センター、校内教育支援センター（ほっとルーム）やスクールソーシャルワーカーの意義と重要性は今後さらに大きくなっていく。校内教育支援センター（ほっとルーム）の増設、スクールソーシャルワーカーの配置は大変良いことであり、関係機関を含めた連携を深めるとともにより多くの学校への校内教育支援センター（ほっとルーム）の設置を強く望みたい。
- ・ 教員が多くの業務を抱え多忙化する中、市独自の I C T 支援員及び学校支援員の配置・増員は、教員が子どもに向き合う時間を増やすとともに授業力をより向上させるためにとっても有効な取組である。予算の制限もあると思うが、ぜひ専門的知識をもつ人材や教員の業務を補助する人材を増やしてほしい。
- ・ 平日の部活動の時間の短縮化や休日の部活動の縮小、会議の精選などの取組により教職員の働き方改革は徐々に進んできているが、今後も一層の多忙化解消と部活動の地域移行に向けての課題解消に取り組んでほしい。
- ・ 「領事館プロジェクト」と外国語教育の充実に向けた取組を連動させて行っていることで、言語能力の伸長のみならず異文化理解、国際的な視野の育成など多方面にわたる成果が期待できてとても効果的であると感じた。
- ・ 放課後子ども教室におけるプログラミング学習キットの導入とプログラミン

グ教室の実施は子どもの居場所づくりのみならず興味関心の喚起やICT能力の育成の面でも有意義な取組であると思う。

- ・雨天やコロナ禍でここ数年完全な形での実施を見送ってきた尾張津島天王祭や津島秋祭を実施することができ、祭のすばらしさ、意義や伝統文化の保存・継承の重要性を改めて感じる機会になったと思われる。津島には歴史と伝統のある貴重な文化遺産が数多く残っており、「津島の達人ジュニア検定、ジュニア選手権」をはじめとした郷土愛を育む活動と歴史文化遺産活用事業や文化財の修理・保存補助事業をより充実させてほしい。
- ・市立図書館の貸出者、蔵書冊数の増加はとても喜ばしい。今後は電子図書の利用がより増えることが考えられるため、電子図書の充実を進めてほしい。

名古屋女子大学・名城大学・日本福祉大学・愛知大学 非常勤講師 三輪昭子氏

- ・年度ごとに、学びの環境をソフト・ハード面ともに維持・向上に務められていることに感謝する。特に、学校教育においては基本方針の中で「特色ある教育の推進」を進めるにあたり、児童生徒たちが学ぶ楽しさとそれによって学習意欲を高める工夫としてICTを活用したプログラミング学習を取り入れ、進めているところは未来を創造する子どもたちにとって今後さらに不可欠のものになるように考える。ただし、ICTを教育の中に取り入れる中で忘れてはならないのが、マイナス点として年々危惧されるマナー学習であろう。SNSに関わることで社会問題化され、子どもたちとも無関係の状態ではない。楽しさを得るためには誰にとっても楽しさにつながるものでなければならぬので、ICT教育の両輪となることを願っている。
- ・上記とも関わるが、「こころの教育推進」を進める必要性は強く感じる。実際、文部科学省から上がってくる不登校者数は近年の増加率が高い。その対策として行うために設置された教育支援センターや校内教育支援センターでは、きめ細かな対策を展開したとあるが、具体的にはどんな支援をしているのでしょうか。そして、その支援が効果的に学校復帰とつながっているのだろうか。ぜひ、その展開内容をも記述に加えてほしい。
- ・安心・安全な学校生活が保障できるような教育環境の整備は学習をハード面で支える欠かせない対応であると思う。経年劣化による老朽化は仕方がないので、継続的に行おうという動きは当たり前のことであるが、他の予算の拡大により隅に置かれてしまう可能性があるため、現在の姿勢を継続してほしい。また、令和5年度当初グラウンドに打ったまま放置された釘で子どもが大けがをしたという事故があった。愛知県と東京都で事故が相次ぎ、西尾市での事故が報道されていたが、津島市は問題ないか。安全を要するのは建物

部分だけでなく校庭を含んでいることに留意され、その点についての報告も欲しいところである。

- 安全・安心な教育環境には食の分野をも含んでおり、その記述を興味深く拝読した。地産地消やオーガニック食材、いずれも現代社会で注目されていることであるし、SDGsにも大きく関わる部分でもあるので、環境を整えるとともに教材化を行い、このような取り組みが必要なのかについて児童生徒に学んでもらうことにより、子ども一人ひとりの健康づくりに大きく関わることを学ぶ機会としてほしい。
- キャリアスクールプロジェクト推進事業は、児童生徒の未来を見つめる眼だけでなく、学習意欲や自尊感情を育てることにもつながる重要な内容を持っている。楽しく働くということや、働きがい。働くということから学べることは何か、職業人による体験談から職場体験へと系統立てた学習プランをさらに継続的に行っていただくことを期待している。